

令和6年度 都城市立有水小学校 学校自己評価・学校関係者評価 評価書

				は、前期肯定的回答が8割以下																												
				は、今回肯定的回答が8割以下																												
	達成の割合		A 80%以上	B 80～50%	C 50%～20%	D 20%以下	肯定的評価（A＋B）	学校自己評価（校長）		学校関係者評価（学校運営協議会）A 4点、B 3点、C 2点、D 1点		総合評価																				
	児童の判断基準（％）		そう思う	まあそう思う	あまり思わない	思わない																										
	教師・保護者の判断基準（％）		よくできている	だいたいできている	あまりできていない	できていない		評価	評価内容	評価	評価内容（評価とコメントをお願いします）																					
学 習	1	主体的な学習	児童	71%	26%	3%	0	97%	B	○ ひなたの学びの具現化のために、わさびを意識した授業の視点を明確にして全員が授業を録画しながら研究授業を行った。職員の授業改善への肯定的な結果につながった。児童の学習意欲にも結びついている。今後は、ティーチングとともに、コーチングへの意識も重視していく。	A 3 7	先生方の努力がうかがえる。少人数ならではの工夫を期待する。 児童はAとしているが、教師と保護者Bで差がある。	B																			
		わ・さ・びを意識した授業	教師	17%	83%	0%	0%	100%																								
			保護者	34%	53%	13%	0%	87%																								
	2	キュビナ積極的活用	児童	63%	26%	11%	0%	89%			○ キュビナの活用状況については、学年の発達段階もあり差がみられた。家庭学習や学びの確認、見届け等で積極的に活用していく。日本語指導においては、キュビナは1年まで溯って学習できるため、学びの確認等に役立っている。市の取組でQ1グランプリ等も行われており、授業だけでなく家庭での活用もさらに推進していく。	・ 5 % ・ B 6 2 ・ 5 % ・ C 0 % ・ D 0 % 3 ・ 3 8 点 （ 8 4 ・ 5		市の取組に積極的に参加し、さらなるスキルアップを目指してほしい。 児童はAとしているが、教師と保護者Bで差がある。																		
			教師	17%	50%	17%	17%	67%																								
			保護者	38%	47%	16%	0%	85%																								
	3	考えの伝達	児童	57%	37%	6%	0%	94%							○ 全校朝会で、元気いっぱいを合言葉に「自分の考えをもち、表現する子ども」に関する話をし、意識づけを行った。特に、授業の中にアウトプットする機会の設定等の取組により、自分の考えや学んだことを自分の言葉で表現しようとする姿が見られるようになった。引き続き表現力の育成も図っていく。	・ 5 % ・ C 0 % ・ D 0 % 3 ・ 3 8 点 （ 8 4 ・ 5	児童はAとしているが、教師と保護者Bで差がある。 保護者の評価が気になる。家庭でも学校と同じように自分を表現できればよい。															
			教師	17%	83%	0%	0%	100%																								
			保護者	26%	52%	23%	0%	78%																								
	4	タブレット積極的活用	児童	80%	14%	3%	3%	94%										○ 校務でのICT活用により、端末の文房具化については、職員や児童の肯定的な回答が高くなってきたことから、意識化は図れてきた。今後も授業での利活用を推進していく。今後は、家庭学習での活用を積極的に行うとともに、保護者にも見届けをお願いすることで、ICTの利活用を推進していく。	・ 5 % ・ C 0 % ・ D 0 % 3 ・ 3 8 点 （ 8 4 ・ 5	タブレット活用については、児童のほとんどができており、今後も積極的に活用し、児童の取り残しがないようにお願いをしたい。 行事の話し合いなど時間を決めてオンラインでできていた。 家庭学習での活用が積極的のようで子どもと頑張っているようだ。 キュビナの活用と同じでさらなるスキルアップを期待する。 児童はよく使っている。 大変難しいと思うが、保護者もっと勉強してほしい。 子供たちは、着実にタブレットは使いこなしているものの、親はそうでもない。見届けが何を指すのは分からないが、親に対しても使用講習なりを行う必要があると思う。使い方、適切な利用法について、子に指導できない。（スキルのなものを除いても）												
			教師	17%	83%	0%	0%	100%																								
			保護者	35%	35%	26%	3%	70%																								
	5	漢字や計算の定着	児童	57%	31%	6%	6%	88%													○ 児童に寄り添う指導を展開したことで、約90％という肯定的な結果であった。 ただし、定着度については意識と結果に差が見られており、児童の学びを見取り、苦手な部分を繰り返し指導して、基礎・基本の確実な定着に努めていく。	・ 3 ・ 3 8 点 （ 8 4 ・ 5										
			教師	20%	80%	0%	0%	100%																								
			保護者	29%	61%	10%	0%	90%																								
	6	家庭学習の工夫・点検	児童	54%	20%	14%	11%	74%																○ 自分の取組状況や内容の工夫等、家庭学習の充実のために、家庭学習振り返り週間を設定し、保護者にも見届けをお願いしたが、教師と児童・保護者に意識の違いが見られた。また取組状況が家庭により差が見られた。家庭学習の時間にも差が感じられるので、家庭との協力体制等を見直していく。	・ 3 ・ 3 8 点 （ 8 4 ・ 5	さらなる先生方と保護者の積極的な連携ができればよい。 振り返り週間のアナウンスと定着が重要。						
		家庭学習への意欲・点検	教師	20%	80%	0%	0%	100%																								
			保護者	32%	35%	23%	10%	67%																								
	7	1日1回読書	児童	60%	14%	23%	3%	74%																			○ 図書主任を中心に、図書館サポーターと連携し、読書ビンゴやスタンブラリー、唱え門での本紹介等の取組の充実により、1日1回読書の肯定的な回答100％、読書冊数の学校目標5000冊以上を11月に達成（12月現在6000冊）したことは大きな成果である。保護者の意識が48％と課題が見られたので、取組の紹介等を積極的に行い、意識改善に努めていく。	・ 5	読書については、児童による1日1回読書が4分の1できていない。また、保護者の評価が低いのが気になる。 本を借りるだけの競争にならないように子供たちにどんな本だったか発表できる時間があれば良いと思う。 読書はよくやっているのでとは感じている。			
			教師	50%	50%	0%	0%	100%																								
			保護者	22%	25%	47%	6%	47%																								
		家読の取組	児童	53%	36%	8%	3%	89%																						○家読週間の設定等により、家読の取組は児童の肯定的な回答88％であったが、保護者の回答は56％と差があり、家庭への啓発に課題が見ら	・ 5	子どもはやっているつもりなんだろうが、実際はものたりなく感じているのではないか。

	8	家読の指導	教師	33%	67%	0%	0%	100%		学校と家では評価する部分が違うので、保護者、教師をあわせて評価が必要かと思う。 親が読まないから子も読まないのではないか。 動画に時間をとられて家ではほとんど読書をしない現状がある。	
			保護者	28%	28%	38%	6%	56%			
		全体平均		39%	47%	12%	3%	85%			

生活	9	有水小　よい子のきまり	児童	77%	20%	0%	3%	97%	A	○　未然防止の指導や守っている児童への称賛、問題への即時対応を心がけた結果、全体的に肯定的な回答であった。ただ、調査結果に対して、実際には一部守られていない児童もみられるなど、気になる点もある。また、校内ではできているが校外ではあまりできていない様子も伺えるので、継続して意識化を図っていく。	A 6 2 ・ 5 % ・ B 3 7 ・ 5 % ・ C 0 % ・ D 0 % 3 ・ 6 3 (9 1 ・ 3 %)	朝の登校見守りを通して、あいさつはよくできていると思う。 元気にあいさつできる児童がたくさんいると思う。 地区で見るとよくよい子のきまりを守っている。 よい子のきまりは地域にも公表してるのだろうか。 子どもが思っているより内容を把握していないようである。	A
			教師	14%	86%	0%	0%	100%		○　ジレンマ教材の取り扱いや道徳的実践力につながる手立て、掲示物の工夫による環境の整備等、道徳教育と常時指導により全体的に肯定的な回答であった。授業外での「命や絆を大切にする」宮崎県道徳教育読み物資料集等の活用についても、検討していく。	家庭での教育を積極的に行ってほしい。 絆を大切にすることで、高城中への条例違反の校区外通学をゼロにしたい。		
			保護者	62%	38%	0%	0%	100%					
	10	道徳の授業の実行	児童	60%	34%	6%	0%	94%		○　全校朝会で、思いやりいっぱいを含い言葉に「自分も人も大切に子ども」として、日々の思いやりのある行動を称賛したり、「平和学習」や「命の大切さ」等の話をしたりして、心の醸成に務めている。縦割り班（有友チーム）での活動や発表集会等でも、思いやりのある言動が見られている。今後も、自己中心的な言動等については、その場で振り返らせて、よりよい行動を考えさせていきたい。	3 ・ 6 3 (9 1 ・ 3 %)	外国からの転入生が近所で仲良く遊んでいるところが見られてよいと思う。 ケガをした児童をクラスみんなでサポートしているのを見て、優しい子どもがたくさんいると思った。 3者とも良い評価で自分もそう思う。	
			教師	33%	67%	0%	0%	100%					
			保護者	38%	53%	9%	0%	91%					
	11	思いやり行動	児童	86%	11%	3%	0%	97%		○　全体的に「学校が楽しい」という肯定的な回答であった。有友チーム（縦割り班）の活用やSCによる授業等の手立てをとって指導を展開している結果だと考える。職員もスクールワイドPBSの研修を行い、職員全員が一人一人のよさを認め、称賛する体制をとっているので、今後も継続していく。	3 ・ 6 3 (9 1 ・ 3 %)	学校が楽しいと回答した児童が大方ではあるが、9パーセントが否定していることが気になる。 笑顔のすてきな児童が多い。学校生活が楽しいのだと思う。 児童が学校が楽しいという評価が多くうれしい。 C、Dの児童が不登校予備軍であるため、ここはゼロにするよう努力すべき。	
			教師	71%	29%	0%	0%	100%					
			保護者	69%	28%	3%	0%	97%					
	12	学校が楽しい	児童	83%	9%	3%	6%	92%					
		自己存在感を味わわせる	教師	57%	43%	0%	0%	100%					
		学校が楽しい	保護者	69%	25%	3%	3%	94%					
	肯定的評価の全体平均				60%	37%	2%	1%		97%			

体育・保健	13	体育や屋休みの運動	児童	83%	9%	6%	3%	92%	B	○ 「体育や屋休みの運動」については、全体的に肯定的な回答であった。ただ、体力テストの結果から、昨年度のTスコアと比較して得点が下がった学年も見られ、体力の二極化がすすむ等課題が見られる。教科体育での運動量を確保し、有体パワーアップ、有水サーキットの取組や外遊びの奨励等により、体力の向上に努めていく。	A 5 0 % ・ B 5 0 % ・ C 0 % ・ D 0 % ・
-------	----	-----------	----	-----	----	----	----	-----	---	---	--

	17	立腰	教師	14%	86%	0%	0%	100%	A 5 点 （ 8 7 ・ 5 % ）	学力には個人差があると思われて、偏りに定着してはいない。 全体的に良くない。スマホやタブレットが原因だろうか。 立腰の椅子の導入とかは検討できないか。				
			保護者	28%	50%	22%	0%	78%						
	18	歯みがき	児童	74%	20%	0%	0%	94%						
			教師	67%	33%	0%	0%	100%						
			保護者	28%	59%	6%	6%	87%						
	19	食事マナー・好き嫌い	児童	66%	20%	9%	6%	86%						
			教師	50%	50%	0%	0%	100%						
			保護者	31%	53%	16%	0%	84%						
	肯定的評価の全体平均			54%	38%	6%	1%	93%						

その他	20	中学生との積極的取組	児童	89%	11%	0%	0%	100%	A	○「こ小中連携」については、今年度も中学校との「YuYuランドデイ」、子ども園との合同交通教室や遠足、おもちゃ祭り等の学習交流の実施により、全体的に肯定的な回答であった。小・中各学校の反省や協議をもとに次年度の教育課程に位置づけ、計画的に進めていく。	A 1 0 0 % ・ B 0 % ・ C 0 % ・ D 0 % 4 点 （ 1 0 0 % ）	中学校との交流は、高学年にとって特によいと思う。 中学生と交流する機会をもっと増やし内容も工夫・改善してもらいたい。 有水地区の子ども小・中すばらしい子供たちである。 小・中でより連携して進めてもらいたい。	A		
			教師	80%	20%	0%	0%	100%							
			保護者	55%	39%	6%	0%	94%							
	21	地域学習への意欲	児童	86%	11%	3%	0%	97%		○ 地域貢献活動として、こ小中地域合同クリーン作戦、郷土芸能（有水鉦踊り）への協力体制の強化、道守活動への参加、ふるさと教育の各学年で実施等、地域コーディネーターを中心とした連携を強化できたこともあり、全体的に肯定的な回答であった。今後も学校と地域のネットワークづくりに努め、支援者や支援団体の組織化をすすめることで、連携を推進していきたい。		地域学習については、ほぼ100%肯定的な内容であり、地域として安心できる。 有水地域を好きになってほしいし、今後とも学校と地域をつなぐことの大切さを実感している。 有水鉦踊りへの理解と協力が素晴らしい。その他地域との連携がとても良い。 高学年が有水のよさを低学年にたくさん教えてもらいたい。			
			教師	100%	0%	0%	0%	100%							
			保護者	44%	56%	0%	0%	100%							
	22	学校便り・学級通信等	児童	89%	9%	3%	0%	98%		○ 学級通信、学校便り、ホームページやシグフィー等による「情報発信」に関しては全体的に肯定的な回答であった。来年度は150周年記念事業も行われる予定であり、地域への発信も視野に、学校に関する情報を積極的に発信していきたい。		学校の様子がよく分かり便利に利用している。 情報発信では、学校だよりやホームページなど積極的に行われており、評価できる。 宮日新聞紙上に有水小学校の児童の作品を見ると元気がもらえる。 毎回楽しみに読ませていただいている。 今後とも積極的に情報発信をお願いしたい。 ホームページを見るのが楽しみである。学校・児童の様子がよく分かる。			
		学級通信の発信	教師	50%	50%	0%	0%	100%							
			保護者	75%	22%	0%	3%	97%							
	肯定的評価の全体平均			74%	24%	1%	0%	98%							

学校評価者評価を踏まえた今後の方策	1「学習」・・・タブレット活用については、今後も積極的に活用していくが、保護者と一緒に活用するなど保護者のスキルや意識も上げていきたい。読書については継続して家庭での読書の習慣化を目指していく。 2「生活」・・・有水よい子のきまりの周知徹底を図り、地域・保護者も一緒に見届ける環境を作っていく。スクールワイドPBSについて、職員だけでなく地域も一人一人のよさを認め、称賛する体制をとっていけるようにしていく。 3「体育・保健」・・・早寝・早起きの啓発、家庭での歯みがき、家庭や学校を通しての立腰指導の充実が求められる。特にスマホなどの使用とあわせて、保護者と話し合う時間をとり、意識を一本化していく。 4「その他」・・・地域コーディネーターを中心とした地域活動の円滑な協力体制の構築、ホームページだけでなく、デジタル化を活用した情報発信の促進を薦めていく。
-------------------	---